

渡良瀬遊水地保全・利活用協議会第2回遊水地保全・再生検討部会 議事要旨

日 時：平成28年1月27日（水） 15時00分～17時10分

場 所：栃木市藤岡遊水池会館 2階大会議室

出席者：別紙出席者一覧表（構成員：44団体中30団体（42名）、
オブザーバー：4団体中1団体（1名）が出席）

<議事要旨>

※部会については、栃木市と小山市が交互に事務局を務めることとなっており、本会は小山市が担当。
小山市渡良瀬遊水地ラムサール推進課 篠原係長が司会進行。

1. 開会

- ・司会より開会の辞
- ・資料の確認

2. 挨拶

【部会長より】

前回の部会では4つのテーマについて検討しようということになり、各団体で知っていること・取り組んでいることについて、アンケート調査をさせていただいた。本日はアンケート調査の結果について幹事会で整理したものを説明し、またご回答いただいた各団体からもご説明をいただき、さらに専門家からの説明のあと、意見交換をしたいと考えている。本日の部会が有意義なものとなるようご協力をよろしくお願い致します。

3. 議事

(1)

【議長より】

議題（1）アンケート調査結果について事務局より説明をお願いします。

○事務局

- ・資料1、資料2及び資料3に基づき説明

【議長より】

ただ今の事務局からの説明について質問等ございましたらよろしくお願い致します。

○わたらせ未来基金 青木氏

外来種には国外外来種と国内外来種の2種類ある。国内外来種もぜひ念頭に置いていただきたい。

また、乾燥化という話があったが、もともと湿地であれば入ってこない植物が入ってきている。代表例がクズで、本来の湿地環境以外で入ってくる植物も対策をする必要がある。そうしないと、乾燥化どころか荒地化に向かっていき手に負えなくなる。9月の洪水では、1週間水に被ったところではクズは無くなり、アレチウリも昨年比べて減った。ワタラセツリフネソウも無くなったので、ワタラセツリフネソウはもともとは少し乾いたところに生育していたと思う。個々の種というよりも湿地環境をどうするかを念頭に置いて外来種対策に取り組んでいただきたい。

○環境省関東地方環境事務所 中山氏

資料3の訂正をさせていただきたい。現在は、セイタカアワダチソウの要注意外来植物という言い方はしておらず、「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」で外来種の一部としている。

ブラックバスはオオクチバスのことだと思う。特定外来生物である。アメリカザリガニは、特定外来生物ではなく、未判定外来生物である。

【議長より】

よろしければ、このあと各団体から1. 外来種の動植物対策と2. 希少動植物の保全の在り方について、併せて3分以内で説明をいただきたい。

それでは、名簿順に栃木市からお願いしたい。

○栃木市遊水地課 與澤氏

外来種対策では、ノジトラノオを中心に保全活動を行っており、5月にセイタカアワダチソウを含めて除去活動を実施した。

希少種保全は、ノジトラノオの保全のためにヨシを刈って日当たりを良くしたりしている。生態系調査として植物について今年度から調査を開始している。またミズアオイをはじめとした絶滅危惧種復活プロジェクトを進めている。

○小山市渡良瀬遊水地ラムサール推進課 渡邊氏

特に掘削地へのセイタカアワダチソウ等の急速な侵入が問題となっている。市では掘削地を利用し、自然観察・自然体験の場を提供するエコミュージアム化の取組みを推進しており、そういった観点から環境学習フィールドを活動エリアとして、ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦を実施している。

環境学習フィールド3は堤防に近く、魚類等の持ち込みが心配されるため、利根川上流河川事務所藤岡出張所と相談し、入口に生物の持ち込みの禁止を呼びかける看板を設置している。

今後も市として除去作戦を継続していくが、企業や団体など別な主体が主体的に保全活動に関われる仕組みづくりを検討していかなければならないと考えている。

希少種保全については、動植物や希少鳥類の調査を行い、その結果を踏まえ、今後の保全対策や保護管理手法の調査研究を進めていきたいと考えている。

○野木町政策課 鈴木氏

平成26年度から小山市と共催で外来種の除去作戦を行っている。水辺の楽校においても外来種の除去活動を実施したところである。来年度は年に数回程度実施していきたいと考えている。

希少種保全については、野木町として具体的な取組みは現状としてはない。

○加須市環境政策課 鈴木氏

問題となってきているのがアライグマの対策である。今年度、北川辺エリアで捕獲はないが、市内ですでに9頭が捕獲されている。実は午前中アライグマの回収に行ってきた。利根川を渡ってすぐの大越地区である。昨年2~3頭のところ今年9頭なので影響が懸念されるところである。埼玉県計画にのっとり防除に取り組んでいる。

○一般残団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 白井氏

希少植物の保全の効果等を調査し、保全手法等を検討、経年変化を継続観測している。希少種の保全、環境の保全は渡良瀬遊水地にとって大切である。賢明な利用を図りながら、広報をしていただくと注目を高めるのではないかと感じている。

○渡良瀬遊水地第2調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会 米田氏

セイタカアワダチソウやヤナギが繁茂して、青木先生のご指導のもと除去作戦で除去している。旧思川ではウシガエルがうるさくて駆除できないかなという話がある。

当団体は、治水が主体で、とにかく遊水地を掘削して、堤防を強化してもらうことが一番の目的なので、どうぞよろしくをお願いします。

○ラムサール湿地ネットわたらせ 楠氏

構成団体にわたらせ未来基金や渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会など専門的なグループがいるので、専門的な意見はそちらにお任せして、それに関わる対策などに注意を向けていきたい。対策は各団体で行っているが、問題はいかに全体的に継続できるか。これから対策をとる主体・体制が問題で、それをいかに作っていくかである。

ごみ問題もたくさんの団体がそれぞれの狙いを持って活動している。特に自治体ではヨシ焼きの後のクリーン作戦、団体ではヨシ焼きの前に活動している団体もある。継続的にどこかの団体でまとめる主体がないといけない。その仕組みづくりをいかにしていくかが協議会の役割だと思っている。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

2014年からは栃木市の市民活動推進事業の一つとして、市民による生きもの調査を毎月行っている。植物・昆虫・野鳥の専門家の指導を仰ぎながら、湿潤環境形成実験地での湿地再生の状況調査を主眼として、啓発的な意味も含めての調査である。

外来種については、掘削した次の春から、アメリカザリガニが入ってくる。湿地再生しているけれども乾燥化が進んでおり、昆虫の生息場所が狭まっている。

問題点を絞り込んで、具体的にそれぞれが取り組めることに取り組んでいくことが、この部会の役割ではないかと思っている。

○わたらせ未来基金 青木氏

セイタカアワダチソウ除去の目的は、希少種を含む在来種を駆逐してしまうため、徹底的に除去する必要があり、環境省でも、すでに各地の河川敷や荒地等で野生化しているが、希少種等との競合・駆逐のおそれが高い地域については、積極的な防除または分布拡大の抑制策の検討が望まれるとしている。全体はできないので、絞って環境学習フィールドをモデル的に進めている。フィールド3については、今後活動される団体の参考にしていただければありがたい。

希少動植物の保全については、いかに湿地環境を取り戻すかが大きな課題として取り組んでいるところである。さらに生態系の上位種を守れば、生態系を守れるので、未来基金はコウノトリをシンボルにして、コウノトリに選んでもらえる渡良瀬遊水地になるよう活動しているところである。

○わたらせ未来基金 内田氏

従来から渡良瀬遊水地に入って活動しており、裸地になったところにすぐにセイタカアワダチソウが入ってきたのがわかっていた。全体から見れば微々たるものと言われる時もあるが、湿地保全・再生プロジェクトとして、毎月遊水地の中に入ってやっていくと先が見えてくるというか、何年かやっていくとそこ

の環境はできつつある。環境学習フィールド3は人海戦術ではないが、多数の人間が中に入って、良い湿地環境が整っているかなという気がする。各団体がそれぞれ全部はできないと思うので、具体的な場所を決めて、そちらこちらで機会を作ってもらえれば、市民も関心を持つ。市民を巻き込んだ対策をしていけばよいと考えている。

○小山市教育委員会 中島氏

小中学生が渡良瀬遊水地について学習する学習ブックを作成しており、その中で希少動植物や保全活動について紹介している。

教職員には教材研究と社会貢献を兼ねて除去作戦について案内文書を配っており、市内の教職員900名のうち平成26年度は各回80名の参加だが、平成27年度は各回140～150名近く参加している。今後も除去作戦にあわせて協力していきたい。

○環境省関東地方環境事務所野生生物課 中山氏

外来生物法において特定外来生物の飼育・栽培・保管・輸入を規制して、特定外来生物の分布を防いでいる。特定外来生物は簡単に言うと広げるとまずいという生物で、制限をかけている。

希少動植物については、鳥獣保護法で鳥獣類の保護を図っており、渡良瀬遊水地は国指定鳥獣保護区になっている。渡良瀬遊水地に限らず、国指定鳥獣保護区監理員という制度があり、定期的にエリアを巡回・巡視し報告をしていただき、こういった動きがあるのか把握をしている。

○利根川上流河川事務所調査課 持丸氏

河川巡視で外来種の植生の確認をしている。除去作業も協力しており、参加もしている。第2調節池は掘削により外来種の根茎を除去し、湿地の再生を図っている。

希少動植物の保全の在り方については、自生地の育成調査、種子の保全、発芽の技術の検討を実施している。

【議長より】

それでは、ここで長年渡良瀬遊水地の自然に関わっていただいている渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団の白井専務理事から補足説明をしていただきます。

○一般財団法人渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 白井氏

<パワーポイントに基づいて説明（主な説明を抜粋）>

- ・ヨシ・オギが全体の50%、谷中湖水面・堤防・運動施設で50%。
- ・ヨシ原が中心で、植物1,000種類、うち絶滅危惧種は60種。
- ・鳥は日本で見られる鳥の約半分が見られる。ワシタカ類が非常に多い。食物連鎖の頂点に立つ大型の鳥が多いということは、豊かな自然があるということである。
- ・渡り鳥の中継地として重要な地点である。今の時期はカモ類がたくさん来ている。
- ・エコロジカル・ネットワークの渡良瀬遊水地エリア検討部会が先日開催された。加須市や小山市にはコウノトリが飛来している。小山市ではふゆみずたんぼなどコウノトリがいつ飛んできてよい対策をとっている。そういったことが始まってきている。
- ・昆虫は1,700種。21年ぶりにタガメが見つかった。
- ・なぜ豊かな自然環境が保全されてきたかということ、洪水対策のため河川法で保全されており、大規模な開発がない、毎年ヨシ焼きがされている、河川工事等によって攪乱され埋土種子が出現する、地域と一体になったクリーン作戦など地域の環境を守る意識がある、などである。

- ・特にヨシ焼きは、ヨシを焼かないと枯れたヨシが多くなり希少植物が育たなくなる。焼くことにより、元気な植物が出てきて、種類も多くなる。
- ・アレチウリが繁茂すると他の植物が枯れたり、高い木に覆いかぶさり枯れたりする。セイタカアワダチソウは他の植物を枯らすような物質を出す。この駆除に一生懸命取り組んでいる。
- ・ブルーギル・オオクチバス、アメリカザリガニも問題である。アメリカザリガニは水生の植物を切断したり、水生昆虫を食べてしまう。ブルーギル・オオクチバスは駆除作戦を行っているところがある。
- ・ウシガエルが繁殖すると、他のカエルが減少するほど影響が大きい。
- ・イノシシが増えすぎると周辺の農家の被害も増えてくる。増えないよう工夫をしないといけない。
- ・昨年の洪水の植物への影響は、湿地性の希少植物にはあまり影響はなかった。クズ、アレチウリ、オオブタクサは浸水すると枯れる。乾燥に強い植物は水に弱い。セイタカアワダチソウは、ダメージは受けたが、根がしっかりしており、枯れきれなかった。やはり一番厄介である。
- ・希少植物の観察で同じところばかりを歩くと踏み荒らされたり、他から外来種が入ってきたりする。木道を作るなどの手法を考えないといけない。
- ・植物は掘削すると出現する種が倍になる。10年20年経つと戻るが、掘削して5年くらいは非常に良い環境である。
- ・湿地環境や希少植物の保全、ヨシ焼きなどが大きい環境保全になる。絶滅危惧種の現状、今後の変化をしっかりと見て、課題・原因を追究し対策をしていく。保全のマニュアルがほしいということもあり、整理して市民参加による保全につなげていくことだと思う。
- ・盗掘もあり、全体を保全区域として保全するというのも考えないといけない。それでも守られない場合は法律・条例が必要になる。
- ・環境を整備する中で重要なのは、情報を共有して保全の啓蒙活動をしていくことである。賢明な利用をしながら環境について知っていただき、保全活動をしていただく。対になって活動していただければと思う。遊水地の機能の確保、情報の共有化、できることから始めていくということが重要。地域一体で取り組んでいくことも重要である。生態系のバランスを考えながら皆さんと検討していければと思う。

【議長より】

検討にあたり貴重なお話ありがとうございます。先ほどの皆さまからの説明とこれまでの内容を踏まえて意見交換を行います。

○渡良瀬遊水地野鳥観察会 一色氏

貴重な動植物を守っていかなければならないのは大前提であるが、すでに多くの外来種が入っており、その多くが日本の生態系に組み込まれている。人間に危害を加える、生態系に徹底的な打撃を与えるのであれば、駆除が必要だと思う。動物については徹底した駆除が可能かもしれないが、多くの種子を拡散する植物は困難であると思う。遊水地だけでやっても外から入ってくるし、進入を阻止しないと不可能に近い。外来植物を利用している在来動物もいる。その都度その都度の対処療法的な対応が妥当ではないか。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

白井専務からまとまった意見を出していただいた。あれだけまとまっているのなら、お仕事としてもっと発言を強くして、リードしていただいた方がいいのではないか。

○特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡 藤原氏

イノシシやアライグマに遭遇したときの情報はどのように処理したらよいのか。連絡できるのであれば連絡したいが、どこにどんなふうにお話したらよいのか。

【議長より】

行政の方では農政部門でイノシシの対策をしており、ご連絡いただければ対応を検討できる。どこで目撃したかで変わってきてしまうが、連絡をお願いできればと思う。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

昼間でも出てきている。国交省や栃木市には言ったが、他のメンバーは増えていると言っており、ヨシ刈りの方もけがをしているので急ぎの問題だと思う。1週間前に水位安定型実験地でもアライグマの足跡があった。実際に中に入ってきている。

【議長より】

栃木県南環境森林事務所からも話は来ている。連携しながら担当部署で対応していきたい。

○栃木市遊水地課 荒川氏

産業振興課で何か所か罠をかけたが、確保までには至っていない状況である。

○わたらせ未来基金 内田氏

アライグマは野木神社でも出ていて、昨年捕獲し県の方に頼んで処理してもらった。すぐ近くにいるので早急な対策をとらないといけない。急に増えてしまうと捕獲するのは難しくなる。

【議長より】

中山自然保護官、アライグマの対応はどうしたらよいでしょうか。

○環境省関東地方環境事務所野生生物課 中山氏

原則イノシシと同じようにお願いしたいが、先だつてのカミツキガメなど、後で確認すると違うなどあるので、可能であれば写真を撮っていただき、こちらで同定をさせていただく。捕獲などはこちらで直接手を出すことは難しいが、捕獲の際の案内をさせていただく。各県・市町もしくはアクリメーション振興財団にご相談いただければと思う。

○利根川上流河川事務所 森田副所長

カミツキガメが目撃されたが、写真でワニガメだと確認された。その後見失い、捕獲を試みたが、捕まっていない。近辺にいる可能性はあるので、カミツキガメほど凶暴ではないが気を付けていただきたい。見つけたらぜひ第一報をいただきたい。

○渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 猿山氏

緊急なこととして、湿潤環境形成実験地でのザリガニの調査や捕獲はやらせていただけるか。水生生物が貧弱になり、鳥も来なくなる。掘削直後はたくさん鳥がいたが、今年は本当に鳥がいない。ザリガニが犯人ではないかとみんな気にしている。

【議長より】

今回は、3. 野鳥の生息環境の保全と4. ごみ対策の強化について、本日と同じように説明をいただき、今後どのような対策をとっていくのかも検討もしていきたい。

それでは、用意していた議題は以上で終了とします。

4. 情報交換

○事務局から

- ・イベント情報等記入様式の提出について依頼（資料6）

○渡良瀬遊水地野鳥観察会 一色氏より

- ・第62回渡良瀬遊水地野鳥観察会（遊鳥会）定例会資料（資料5）

○利根川上流河川事務所より

- ・渡良瀬遊水地エリア検討部会を設立したことについて説明
- ・マナーパンフレットが完成したことについて説明（終了後、各構成員に配布）

○アクリメーション振興財団より

- ・環境学習講座の紹介

5. その他

- ・事務局より次回開催の案内

6. 閉会

- ・司会より閉会の辞